

新秩父宮ラグビー場（仮称）基本計画 ～概要版～

1. 事業の概要

（1）これまでの経緯

秩父宮ラグビー場を管理・運営する日本スポーツ振興センターは、新秩父宮ラグビー場（仮称）の整備について、東京都の地区計画や指針に基づき、神宮外苑地区一帯のまちづくり事業として、都及び神宮外苑地区のまちづくり事業を推進する関係者と連携し協議を重ねてきた。また、スポーツ庁をはじめとする関係省庁や、（公財）日本ラグビーフットボール協会など関係者との意見交換やヒアリングを通して、本基本計画の検討を進めてきたところである。

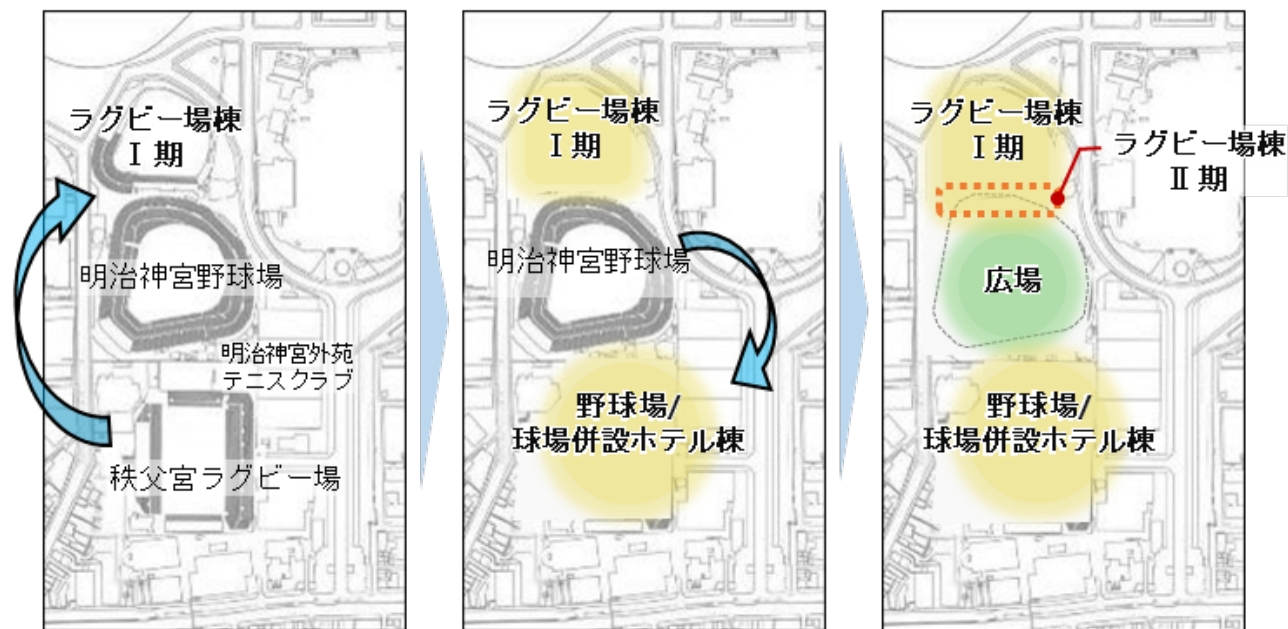
（2）計画地を含む神宮外苑地区再開発事業の整備イメージ

計画地を含む神宮外苑地区一帯のまちづくり事業は、都の指針の誘導方針として示されている「競技等の継続に配慮した大規模スポーツ施設の連鎖的な建替え」に基づき整備を行う予定である。新秩父宮ラグビー場（仮称）については、現位置より北側に移転し、Ⅰ期、Ⅱ期に分けて整備する予定で検討を進めている。

○第二球場解体
⇒ラグビー場棟建設（Ⅰ期）

○ラグビー場解体
⇒野球場/球場併設ホテル棟建設

○神宮球場解体
⇒ラグビー場棟建設（Ⅱ期）



※ラグビー場棟の南側は神宮球場にかかるためⅡ期に建設

2. 計画地の概要

（1）計画地の現状

新秩父宮ラグビー場（仮称）の計画地は、新宿区に位置し国立競技場に隣接しており、敷地面積は約43,500㎡である。また、計画地を含む神宮外苑地区は、国立競技場をはじめとした日本を代表するスポーツ施設やその関連施設が多く集積し、国民がスポーツに親しむ一大拠点を形成している。

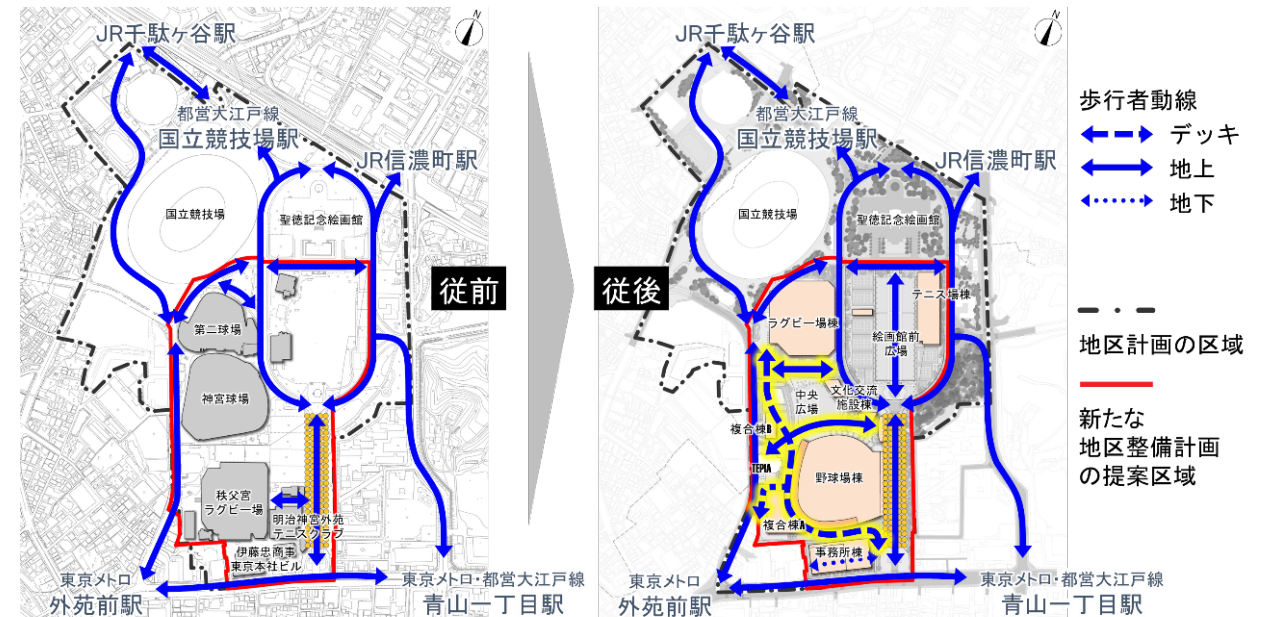
（2）計画地を含む都市計画

都が策定した「神宮外苑地区地区計画」に定める目標の実現に向けて、東京2020大会後を見据え、民間が事業主体となって進めるまちづくりを適切に誘導するため「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」を策定し、神宮外苑地区をにぎわい溢れるみどり豊かなスポーツの拠点として更に発展させていくための目指すべき将来像を掲げた。

新秩父宮ラグビー場（仮称）は、都の公園まちづくり制度の活用も図りながら、上記、指針に基づき、世界に誇れるスポーツクラスターの形成の一助となるようまちづくりに取組む方針で整備を行う。また、整備を行うにあたり、地区計画の方針を踏まえた必要な地区施設等を位置付けていく。

（3）計画地と周辺ネットワーク

国立競技場や中央広場、神宮球場との連携を図り、地域一帯でスポーツ・文化の醸成に貢献する。また、計画地への来場者が安全・快適に歩行・滞留でき、また、周辺の緑豊かな風格ある都市景観やにぎわいを楽しめるよう歩行者動線等の整備を図る。



3. 施設整備計画に関する事項

(1) 施設整備の基本的な考え方

新秩父宮ラグビー場（仮称）の整備は都市再開発法に基づく第一種市街地再開発事業（個人施行）として施行予定である。また、基本方針を踏まえ、以下の考え方を基に施設整備計画を検討する。

1. 我が国のラグビーを象徴するスタジアム

■ラグビーの「聖地」

選手は最高の高揚感を感じ、観客はどこからでも見やすく、スタッフは機能的に運営できる、訪れた人々が一体感：ONE TEAMになれるラグビー場を目指す。

■ラグビーの魅力を感じられるスタジアム

秩父宮ラグビー場の歴史や日本ラグビーの感動の場面、記録などに加え、ラグビーの持つ多様な価値を実感し、誰もがスタジアム全体でラグビーを体験できるような施設を目指す。

2. 様々なシーンに対応できる誰もが心地よいスタジアム

■多様なスポーツ・文化によるにぎわい創出

ラグビー以外のスポーツ競技や各種イベントでも使いやすい施設とし、神宮外苑地区のにぎわい創出に寄与する。

■人にやさしく、何度でも訪れたい空間

共生社会にふさわしい計画とし、誰もが心地よく過ごすことができる施設を目指す。

■スマートスタジアム

最新の通信環境を導入するなど、ICTの活用による高付加価値のサービスを提供する。

「スポーツの力」で未来を育てるスタジアム ～人々の生きがいを創出し、持続可能で活力ある社会を育む～

3. 持続可能性に配慮した未来を紡ぐスタジアム

■地球・社会にやさしい施設

省エネルギーをはじめとする地球温暖化対策、持続可能性に配慮するなど、地球や社会にとってやさしい施設を目指す。

■防災性の強化により地域に貢献

大規模災害発生時には利用者や帰宅困難者の安全を確保するとともに、防災拠点として地域に貢献し、安心・安全な施設を目指す。

4. スポーツの多様な価値を発信するスタジアム

■「スポーツの力」で未来を育てる

秩父宮記念スポーツ博物館を起点として、様々なスポーツの価値を発信し、知的な刺激や楽しみを分かち合い、語り合える場・機会を提供する。

■スポーツのもたらす可能性

心身の健康の保持増進に加え、スポーツが社会にもたらす効果、人と人とのつながり・絆などスポーツの可能性を感じられる施設を目指す。

(2) 整備方針

1) 基本事項

①規模・主用途	<ul style="list-style-type: none"> ワールドラグビー公式試合開催の際に求められる施設水準と機能※を想定する。 ※「ラグビーワールドカップ2019開催都市ガイドライン」で示される試合カテゴリーのプール戦（カテゴリーB）クラス 収容人数は約25,000人規模とし、座席は20,000席を想定する。 主用途はラグビー利用とするが、他のスポーツやスポーツ以外のイベント等の利用も想定する。 全天候型のスタジアムとする。
②一般利用者への開放	<ul style="list-style-type: none"> スポーツやイベント利用以外にも、公園利用者や来街者に対しても開放された施設を目指し、スポーツ博物館、飲食店、物販施設等、利用できる施設を計画する。
③スマートスタジアム	<ul style="list-style-type: none"> IT技術の進展により、観客に対する様々な情報提供や観客による情報発信等が高度化・多様化していくことを前提に、最新の通信環境の導入等を検討する。
④ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが利用しやすい施設とするため、ユニバーサルデザインに十分配慮した諸室、動線、サイン等を計画する。

2) 導入機能

①フィールド	<ul style="list-style-type: none"> 人工芝のフィールド、フィールドサイズ：140m×87mを想定 人工芝はトップレベルの選手が常に良好な状態で競技できる環境 選手との距離が近く感じられ、試合の臨場感が感じられ、選手と観客の一体感が生まれるラグビー場を目指す
②スポーツ関連 （選手関連、運営者等関連、メディア関連）	<ul style="list-style-type: none"> 選手関連諸室、運営者等関連諸室、メディア関連諸室などは、ラグビーの試合の開催に必要な諸室を確保 選手関連諸室、運営者等関連諸室、メディア関連諸室を利用する者が不自由なく快適に利用できる計画
③観客関連	<ul style="list-style-type: none"> 快適なスポーツ観戦環境を実現できる、スタンド席やコンコース等の空間を計画、また文化イベント利用にも配慮した形態 案内サインやゲート等の視認性にも配慮された、誰もが使いやすいラグビー場 入場前の待機スペースを確保
④VIP関連	<ul style="list-style-type: none"> 十分な数の個室化されたVIPルーム等、ホスピタリティ施設としてふさわしい空間を計画
⑤文化交流施設	<ul style="list-style-type: none"> スポーツの多様な価値を伝えるネットワークの拠点としての秩父宮記念スポーツ博物館及びラグビーの魅力を発信するミュージアムを計画
⑥イベント関連	<ul style="list-style-type: none"> イベント関係者の諸室は、イベントの開催に必要な設備・諸室を適切に確保した、運営者が不自由なく快適に利用できる計画 搬入車両のフィールド乗り入れ等の設営に配慮した計画
⑦にぎわい形成機能	<ul style="list-style-type: none"> イベントの有無に関わらず来街者が利用できるように、ラグビー場低層部に文化交流施設、店舗等を配置し、屋外空間や他の街区との連携による一体的なにぎわい形成に配慮した計画

3) 動線計画

- ・ラグビーを主とした国際競技大会の開催に対応できるように、選手、運営者、メディア関係者、観客、VIP、管理者等の施設利用者がそれぞれ機能的で分かりやすい動線を計画する。
- ・自然災害や火災発生時等に、施設利用者が迅速かつ安全に避難できる動線を確保する。

4) 景観

①外観デザイン

- ・ラグビーの聖地としてふさわしい品格のあるデザインを目指す。
- ・神宮外苑の緑豊かな風格ある都市景観との調和を図る。また、隣接する国立競技場や野球場棟など、三つのスタジアムが協調し、周辺街区や公共施設等との調和を意識したデザインを目指す。
- ・スタジアム通りからの圧迫感の緩和を図るとともに、中央広場・絵画館前広場からの景観に配慮する。

②緑化計画

- ・計画地の外周や北側に存在する既存樹木を活かし、神宮外苑の緑と調和した緑化空間を形成する。
- ・隣接する国立競技場と調和するみどりのネットワークを形成する。

5) 環境

- ①環境：自然エネルギー等の利活用により省エネルギー化・節水を図り、環境負荷を軽減した施設とする。

- ②LCC（ライフサイクルコスト）：環境配慮した設備機器を採用するなど、LCCが低減されるように計画する。

6) 設備

- ・スポーツ利用やイベント利用それぞれに対応し、観客や管理運営者等にとって魅力的で使いやすい設備・設備諸室を計画する。
- ・将来の設備更新に配慮した計画とする。
- ・自然災害や火災発生時等においても対応可能な設備計画とする。

7) 防災・BCP

- ・大規模災害に備え、十分な耐震性を有する構造とするとともに防災にも配慮した安心安全な計画とする。
- ・自然災害等に対応するために、必要な構造や防災機能を有する計画とする。
- ・災害発生時に帰宅困難者対応や施設利用者へ配慮して、滞在可能なスペース、備蓄倉庫、発電設備等を計画する。
- ・来場者が安心して過ごせるよう、新型コロナウイルス感染症等の感染症への対応を踏まえた計画とする。

(3) 事業方式

民間のノウハウと創意工夫を最大限活用できるよう施設整備及び運営に民間活力を活用した事業方式（PFI事業／BT＋コンセッション方式）により整備することを前提に進める。

4. 管理・運営業務に関する事項

(1) 管理・運営の基本的な考え方

1) 管理・運営の基本的な考え方

- ・基本方針に掲げるスタジアム像の実現を図り、ラグビーをプレーする人、みる人、ささえる人、集まる人にとって安全かつ快適な施設となるとともに、他のスポーツ競技や各種イベントなど様々な用途でも同様に誰もが安全かつ快適に使用できるよう管理・運営を行う。

2) 管理・運営手法

- ・ホスピタリティ機能の充実や収益の最大化を図るため、民間のノウハウと創意工夫を最大限活用できるようコンセッション方式を想定し、民間活力が最大限に発揮されるよう、設計・建築と管理・運営とを連続した一体事業とすることを想定している。

3) 対象施設範囲

- ・管理・運営の対象施設範囲は、新秩父宮ラグビー場（仮称）とする。
- ・文化交流施設として整備するスポーツ博物館における、資料の収集保存や調査研究、展示、教育普及等の学芸業務をはじめとする運営業務は原則としてJSCが行うこととし、維持管理業務は新秩父宮ラグビー場（仮称）の維持管理と一体で事業者が行うことを想定している。
- ・神宮外苑地区一帯のまちづくりに取り組み、関係者との連携及び協力を努めるものとする。

4) 運営権設定と管理・運営の開始時期等

- ・I期 建設工事竣工後に運営権を設定し、管理・運営を開始することを想定している。

(2) 収支に関する基本的な考え方

1) 収入

新秩父宮ラグビー場（仮称）の収入については、ラグビーその他スポーツ利用による貸館収入のほか、文化イベント利用等による貸館収入、広告収入、ホスピタリティの向上に資するサービスの提供による収入等を想定する。

事業者は、新秩父宮ラグビー場（仮称）の全天候型スタジアム等の施設特性や立地の優位性を最大限に活かし、収益の最大化を図ることが期待される。

2) 費用負担

新秩父宮ラグビー場（仮称）の維持管理・運営に係る費用（運営実態に基づき課税があった場合の課税額相当分の負担を含む。）は、貸館その他の収入から事業者が原則負担することを想定する。

収入及び費用負担については、今後実施するマーケットサウンディングの調査結果及び市場動向を踏まえ、更に詳細な検討を行う。

5. 事業スケジュール〈想定〉

基本・実施設計	令和4（2022）年度～
【I期】建設工事	令和6（2024）年度～令和9（2027）年度
【II期】建設工事	令和15（2033）年度～